



◀ 代表あいさつ ▶

顔の見える関係性を大切に、地域の活性化を！

あびこ市民活動ネットワーク 代表 関口 隆彦



新型コロナウイルスが 5 類に移行して初めての夏を迎えました。私は我孫子市で生まれ育ったので、久しぶりに地域の夏祭りが開催される今年の夏はわくわくしています。子どもの頃に楽しんだ夏祭りの記憶を今でも思い出します。まちの子どもたちが、今年是我孫子で楽しい思い出をつくってくれたら嬉しいですね。

人は家にいてばかりで動いていないと身体機能や認知機能が低下しますが、まちも同じように活動が停

滞すると衰えていきます。夏祭りに限らず、地域の催事は住民同士が一丸となって取組める貴重な時間で、地域の活性化に非常に大切な存在だと私は感じます。担い手の高齢化や不足による負担等で、継続の不安も耳にしますが、これから先を見据えた新しい地域活動のあり方、考え方を会員の皆さんとともに学んでいけたらと思います。

今年度は会員の皆様との交流を意識し、顔の見える関係性を大切にして活動していきたいと考えております。よろしく願いいたします。

「こども基本法」の施行を踏まえた我孫子市の取り組み

子ども部長 星 範之



令和 5 年 4 月 1 日に、「こども基本法」が施行され、子どもに関する取り組みや政策が社会のまんやかに据えられる「こどもまんなか社会」の実現を目指すため、こども家庭庁が創設されました。

我孫子市は、安心して子どもを産み育てることができ、のびのび成長していける環境を整えるため、平成 16 年から子ども総合計画を策定し、子どもの育ちや子育てに関する施策を総合的に進めてきました。現計

画が令和 6 年度で終了するため、令和 7 年度から 5 年間を計画期間とする次期計画を策定します。

これまでも、子ども議会やあびこ子どもまつり・げんきフェスタなどのイベントを開催し、「こどもまんなか」の考えのもと、さまざまな取り組みを行ってきました。6 月 1 日に、改めて、こども家庭庁が推進する「こどもまんなか応援サポーター」を宣言しました。

今後も、我孫子の未来を担う子どもたちが豊かに成長していけるよう、子どもの育ちや子育てに関する取組を全力で推進していきます。

注：こどもまんなか応援サポーター

こどもたちのために何がもっともよいことかを常に考え、こどもたちが健やかで幸せに成長できるような社会を実現するという「こどもまんなか宣言」の趣旨に共感・賛同いただき、その取組みを応援し自らもアクションに取り組んでいただける個人や地方自治体、団体や企業を「こどもまんなか応援サポーター」と位置づけ、その活動を紹介していきます。(子ども家庭庁 HP より)

< もくじ >

- 1P あびこ市民活動ネットワーク代表挨拶／子ども部長挨拶
- 2P 総会報告／基調講演報告(影山貴大さん)
- 3P 活動報告 我孫子市との連携事業／会員の現状を把握する事業 子ども応援団事業
- 4P 会員の活動あれこれ：ふれあい塾あびこ

- 5P 会員の活動あれこれ：市民のチカラまつり企画部門に参加して新入会員紹介
- 6P 地域の活動あれこれ：湖北をみんなでたのしみ隊 地域のみんなで作る子どもとお年寄りの広場 蔵食堂
- 7P 審議会報告／役員会報告／事務局から
- 8P みんなの掲示板／SKS から

令和5年度総会報告

令和5年5月26日、我孫子市民プラザホールにて「令和5年度 あびこ市民活動ネットワーク定時総会」を開催しました。当日出席者 22名、委任状 23名（総会員数 66名）で総会は成立しました。

議案1. 令和4年度事業報告・決算報告・監査報告

議案2. 令和5年度事業計画案

議案3. 会則改正案

会費について審議し、今年度から2,000円に変更されました。

議案4. 令和5年度収支予算案

議案はすべて拍手により承認されました。



総会終了後、基調講演と会員相互の懇親会を持ち、情報交換をしました。

(担当幹事 山本聖)

【基調講演】これからの我孫子に必要な取組み



影山貴大さん（我孫子市地域コーディネーター養成講座講師）に講演していただきました。若い世代が地域活動に参加するために必要な考え方や、認識について触れられていましたので、その内容を一部ご紹介します。

・世の中の人々は40%以上の人が社会貢献に関心を持っている。しかし実際に社会貢献活動に参加したことがあるのは20%に満たない。およそ30%の人が、興味を持ちながら活動はしていない。この30%の人々を活動に巻き込む工夫が必要。

・社会貢献は若いうちからやってほしい。若い頃からまちに関わることが大切。

・働き世代の若者たちには社会貢献活動に参加する時間がないという現状もある。また、参加しても若さを理由に力仕事ばかり振られてこき使われたという事例もよく耳にする。これでは二度と参加してくれないだろう。大事なのは本人に決定権が与えられること。参加しているという意識が芽生えること。また、若者が参加しやすい地域活動にするためには、現在活動している人たちが、若い人材と古い組織との接着剤となる中間支援組織としての意識が大切である。

若者を地域活動へ促すうえで大切なこと

- ①若者の実情に合わせた取組みを
- ②世間という縛りをゆるめる
- ③コーディネーションの意識を持つ

若者が参加しやすいポイント

- ①期間限定である
- ②やることが明確
- ③自分が決められる余白がある

市民活動団体は担い手不足や、活動の停滞など様々な課題を抱えています。これからは自分たちもコーディネーションの意識を持って活動をしていくことが重要なのだと気づくことができました。

講演会のあとに行われた交流会では、久しぶりに顔を合わせた会員同士が活動や課題等について賑やかな意見交換をしました。会員が交流できる機会の大切さを再認識できたので、今年度は会員同士の交流の場を設ける取組みをしていきたいと思います。

(担当幹事 関口隆彦)

—我孫子市との連携事業—

公募補助金に関する進捗状況について

市民協働推進課長 小池 博幸



公募補助金制度については、申請がしやすい制度になるよう、あびこ市民活動ネットワークの皆様や補助金等検討委員会との意見交換、他自治体の事例を参考に立ち上げ補助の新設などの検討を進めてきました。

今後はさらに、皆様のほか、補助金を交付している団体や市民活動ステーションなど市民活動の現場の声を聞き、また民間の助成金制度も参考にしながら制度全般について見直しの検討を進めます。

既存の補助金交付団体を支えつつ、市民活動を活性化し、市民活動へ参加する市民が増えることにつながるような制度にしていきたいと考えています。皆様のご協力をお願いいたします。

令和4年度地域コーディネーター養成講座を終えて（報告）

我孫子健康生きがいつくりアドバイザー協議会 代表 大和 哲

令和4年5月講座スタート、8回の講座があり約30名の受講者に令和5年1月28日修了証が交付されました。

- ①修了生は各々アンケートで自身の気づき、今後の活動について及び主催者への要望などを記入し提出しました。近々養成事業取組結果として公表されるものと思います。
- ②本事業を市のHPでPRするとのこと。個人の写真と一緒にコメント(感想や今後の抱負など)が掲載されると聞いております。そこには我々既存市民団体として、これからの活動及び担い手募集の参考になるものが記載されていると思います。期待しましょう。
- ③今年も市民のチカラまつりが開催されます。6月17日(日)に企画部門が開催され、修了生有志は企画委員として早々に活動参画をしました。

—会員の現状を把握する事業—

会員の皆様の活動がより良いものとなるよう、どのような取組みができるのかを6月の役員会で検討いたしました。今年度は、会員の現状を把握していなければ、適切な取組みもできないことから、現状を把握するためのアンケート調査を実施いたします。8月から9月にアンケート調査票を発送できるように準備し、11月中にアンケート調査の集計を行う予定です。また、アンケート調査の結果をもとに、交流会を来年の2月に実施する予定です。アンケートは100パーセントの回収を目指しています。ご協力ください。

(担当幹事 関口隆彦)

—子ども応援団事業—

「子ども基本法」が制定され、子どもが主人公となって生きる事のできる居場所づくりが注目されています。あびこ市民活動ネットワークは、生きづらさを抱えた子どもや若者達の支援を目的に、当事者の発信と、当事者を支える活動や機関のつながりづくりを中心に据えて、5年間、計6回の講演やシンポジウムを行ってきました。その中で、「どんな子どもありのままの自分でいられる居場所づくりが大切だね」「そんな場所を作りたいね」との声が多く上がりました。今回は、今までの成果を踏まえつつ、市内で注目されている魅力的な子どもの居場所づくりの活動を紹介し、子どもを中心に据えた居場所づくりについて学び合います。そして更に子どもに関連する団体や機関のネットワークを広げていきます。企画運営は実行委員会方式をとり、準備段階から互いの活動について理解を深め、情報と理念の共有を行っていきます。

(担当幹事 柳川眞佐子)

当法人解散にあたって

NPO 法人ふれあい塾あびこ 多田 正志

当法人は、本年4月に解散を決議、現在清算手続き中ですが、このほどこの会報ご担当者から、解散についてひとことを、というご依頼を受けました。当法人はあびこ市民活動ネットワークの発足当初から会員としてお付き合いいただき、2008年から3年間は私があびこ市民活動ネットワークの代表を仰せつかるなど、役員活動でも何かとご支援いただきました。多年にわたるお付き合い、ご支援に感謝しながら、以下申し述べます。

当法人が運営した市民向けの生涯学習の場「ふれあい塾あびこ」は、2000年9月に開塾しました。「何か我々でできることを」という中高年男性グループが開設したもので、運営は当初は任意団体でしたが、2001年3月、我孫子市3番目のNPO法人になりました。

この「ふれあい塾あびこ」は、法人解散に先立って、本年3月に閉塾しました。開塾以来22年6か月、この間に総計1309講座を開催しました。ご登場いただいた講師は300人を、受講者は延べ5万人を超えます。開塾当初は思いもよらなかった実績です。



「天満敦子無伴奏ヴァイオリンコンサート」

これはひとえに、熱心に受講して下さった受講者の皆さん、充実した講座を行って下さった講師の皆さんのおかげですが、運営面では、特に前半は新しい運営スタッフが順次加わって来て下さったおかげです。



このため、2006年に我孫子市が募集した提案型公共サービス民営化制度に応募して、2007年から11年間、「市民カレッジ『我孫子を知る』コース」という“分校”を開設、合計389人の受講者に我孫子市の歴史と現在の課題を知って



「市民活動フェアinあびこ2009」参加 “我孫子をうたう” コンサート
ただくこともできました。

この運営スタッフ参加が、残念なことに後半では途切れ、スタッフの高齢化も進んで運営参加ができなくなる方も出てきました。これがいちばんの原因で今回の活動停止となりました。

市民活動のヒトの悩みは、ご承知のように、すでに10年以上前から多く団体で表面化してきており、私も本会の皆さんとともに、「地域活動はじめの一步講座」その他いろいろな企画で、特に定年後のお元気シニアへの市民活動参加の呼びかけをしましたが、たいした成果が上がっていないのは残念なことです。

いま、高齢者の生活支援その他の分野で、市民活動、地域活動の役割がますます重要になっています。あびこ市民活動ネットワークは、市も市民との協働推進のパートナーとしている貴重な市民団体の連合組織です。会員の皆さん、役員の皆さん一体となって、このヒトの問題をはじめとする市民活動の課題への取り組みが進むことを願っています。



会員の活動あれこれ

★★★★市民のチカラまつり企画部門に参加して★★★★

エール我孫子代表 関口 隆彦

2023年6月17日に市民のチカラまつり企画部門がげやきプラザで実施されました。午前中は3つのワークショップが開催され、どの企画も気づきや学びの多い内容で非常ににぎわいました。実施された企画は以下の通りです。

- ・SDGs de 地方創生ゲーム
- ・グラフィックレコーディング講座
- ・超高齢化社会体験ゲーム コミュニティコーピング

午後は社会福祉法人大阪ボランティア協会理事長の早瀬昇さんの講演会が実施され、「小さく始めて、大きく感動 誰でもできる地域参加のススメ」というテーマで、これから地域の活動に参加したいと考

えている人も、既に活動している人も「自分らしく地域で活動する」ためのコツについてお話がありました。早瀬さんによると、地域の活動と家庭のバランスをとることが簡単ではないことが、働く世代の地域参加が進まない原因の一つだそうです。これについて「世界の平和、家庭の不和」という秀逸な例えで笑いを起こしていましたが、「負担なく参加できる活動」が地域活動のこれからは必要であることを、実際の取組み事例を紹介しながら漫才風にお話しされ、笑いの絶えない講演会でした。

講演会後には講師を含めた交流会が行われ、「グローバルビンゴ」というゲームを通じて参加者同士のつながりを作りながら、活動についての意見交換も活発に行われました。当日は地域コーディネーター養成講座を受講された方々を中心に運営され、これから地域に意欲的に参加されることが期待されます。



新会員の紹介



介護の不安解消に♥スマートホーム化導入支援

虹色未来大学 我孫子校代表 宇野 眞理子

この4月に市民活動団体「虹色未来大学 我孫子校」を設立しました。「健“幸”長寿で人生を全うできる世の中を」という言葉をビジョンに掲げ、柏市で2年前から活動している「虹色未来大学 柏校」とつながりながら我孫子で活動していきます。

我孫子市は東葛地域の中で一番高齢化率も高く、高齢者のみの世帯やひとり暮らし世帯が今後ますます増えてきます。そのような中で、『私は最後まで自宅で安心して暮らして行けるだろうか?』と将来への不安は年を重ねるごとに大きくなります。

昨年8月に、私の95歳の母を在宅で看取りました。本人の希望もあり介護保険を使わずに医療保険を利用し、在宅診療を受けながら5か月間過ごしました。その時に娘夫婦の提案でネットワークカメラを導入しました。介護の不安や大変さが軽減され、ベッドで

の言動がスマホを介して伝わり、双方向に会話ができることで、離れていても動きがわかり安心でした。またアマゾンエコーショウのデバイスを使うと『エコー電気をつけて、眞理ちゃんに電話して、音楽掛けて、時間を教えて等』色々自分で操作しなくても、話すだけで操作可能なことを知りました。また、外からでも冷暖房を入れたり、電灯をつけたりもできます。これからは私の苦手なデジタル環境設定が大事だと母の介護で痛感しました。スマホの活用を皮切りに、スマートホーム化導入支援の専門チームを組んでいきたいと考えています。興味のある方、導入を考えた方、お気軽にご連絡下さい。

事務局 柳葉 崇志 携帯 080-4191-0428

メール 2416future@gmail.com



湖北をみんなで楽しみ隊 《楽しみながら地域を活性化》

「講座で偶然となりの席だった」「子どもの幼稚園バスを待つ場所が同じだった」という縁からつながった子育てママ達が 2021 年に立ち上げた「湖北をみんなで楽しみ隊」に突撃インタビューをしてきました。

ご協力いただいたのは、立ち上げメンバーで今はリーダーを務め、あびこ市民活動ステーションのスタッフでもある片岡綾さんです。片岡さんは流山から湖北に移住し、「ユニークな行事や人が特徴の湖北を楽しみながら活性化できないか」と考えているときに現在のメンバーと偶然出会い、湖北をみんなで楽しみ隊が誕生することになりました。メンバーは子育て世代、大学生、子どもと多世代にわたります。

初めは地域の催し事のサポートから始まり、2022 年 5 月に地域交流を目的としたフリーマーケットを発足記念イベントとして開催したことを皮切りに、自治会連合会主催の「ぼうさいふえすた 2022」にも参画。地域に根付いて活動されている団体です。そんな湖北をみんなで楽しみ隊ですが、湖北駅南口すぐの場所にある「みんなの居場所ビスケット」という地域の

居場所の立ち上げから運営のサポートも行っています。あびこ市民活動ステーションに相談があった「地域にだれでも来られる居場所をつくりたい」という市民の声と「店舗の一部をソーイングカフェとして活用したい」というお店の声を片岡さんがつなぎ、改装作業や準備を湖北をみんなで楽しみ隊のメンバーが協力して実現しました。子育て世代が中心なので、活動への熱量も参加できる頻度もみんなそれぞれで OK。「活動が義務や負担ではなく、自分が楽しめているか」をモットーに湖北をみんなで楽しみ隊は活動しています。



(担当幹事 関口隆彦)

《地域のみんなでつくる子どもとお年寄りの広場 蔵食堂》



柴崎台にある蔵食堂

我孫子市社会福祉協議会 武者小路 智恵子

社会福祉協議会では、地域福祉活動の立ち上げを支援しています。

ある日、書道教室をしている方から「子どもは、宝。子どもに関わることで地域に貢献したい」と相談を受けました。何度か話し合いを重ね、高齢者や子どもの居場所となる“食堂”を立ち上げようということになりました。

“食堂”の実現に向けて、社協ではまず、ボランティアの募集や顔合わせを実施。それと並行して、必要な備品等の調達や、学校・PTA などの関係機関を通じての PR 活動、活動保険の手続き等のサポートをしました。

初めは社会福祉協議会と共催して活動していましたが、今では、調理や事務担当、子どもの見守りをするボランティアさんが中心となって行われています。現在は、「地域のみんなでつくる子どもとお年寄りの広場 蔵食堂」として月に 1 回、総勢 80 名以上の子どもや近所の高齢者が集う場となっています。今後は、高齢者と子どもが交流できる企画を検討し、地域に根差した食堂を目指しています。



令和5年度 第1回 男女共同参画審議会

我孫子市男女共同参画審議会委員 佐竹礼子

6月26日(月)今年度第1回の審議会が開かれました。昨年7月に委嘱を受けてから、今回初めて対面での会議となりました。

議題となったのは、我孫子市第3次男女共同参画プランの中間見直しに関してでした。このプランは2019年度からの10年間の計画ですが、5年を目途に見直しをするとなっており、その時期がきているというわけです。

見直しはどの程度するのか、5年前と状況が変わってこのプランに反映すべきことは何か、数値目標は適当かなど、さまざま検討すべきことはあるのですが、すぐにまとまるというものではありません。

引き続き検討することとなりましたが、見直し作業は2023・2024年度の2カ年に渡りそうです。

あびこ市民活動ネットワーク役員会報告 (2023年4月~6月度)

■4月度役員会 4月13日(木) Zoom会議の併用

- ・令和5年度に行う事業について
- ・総会について
- ・令和5年度の予算について

■5月度役員会 5月11日(木) Zoom会議の併用

- ・総会について資料、当日の流れ等の確認
- ・あびこ市民活動ネットワークのパンフレット作成について

■6月度役員会 6月7日(木) Zoom会議の併用

- ・令和5年度に行う事業の役割分担について
- ①我孫子市との連携事業
- ②会員の現状及び課題を把握する事業
- ③子ども応援団事業
- ・市民のチカラまつりのポスターや動画作成について
- ・あびこ市民活動ネットワークのパンフレット作成について

(担当幹事 山本聖)

★ 事務局から ★

◆虹色未来大学 我孫子校 入会

◆会報の「みんなの掲示板」に会員団体のイベントPRや会員募集、他の会員への呼びかけなどの掲載を希望される場合は、事務局(メール acnw.jimukyoku@gmail.com)までご連絡ください。

◆アドレスご登録の会員には、この会報電子版や、イベントなどのご案内をメールでもお届けしています。アドレスの新規登録をご希望の会員も上記にご連絡ください。

◆各団体の役員・担当者・連絡先等に変更があった場合は、その都度、あびこ市民活動ステーションにFaxにてご連絡するようお願いいたします。(Fax 04 7165 4370)

【あびこ市民活動ネットワークホームページ活用についてのお願い】

あびこ市民活動ネットワークのホームページにご参加ください!

- ・各団体の活動報告
- ・活動予定
- ・新規会員募集
- ・各団体からのお知らせなど

あびこ市民活動ネットワークのホームページを使って

会員の活動を活発に情報発信していきます。

我孫子市の市民活動活性化につなげていきたいので、ご協力をお願いいたします。



あびこ市民活動ネットワークHP

◆次号は10月15日発行予定です。

みんなの掲示板

親子の日@手賀沼公園2023

～7月の第4日曜日は親子の日～

年に一度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしい。

アメリカ人写真家、ブルース・オズボーンの願いが実を結び2003年に「親子の日」は産声をあげました。「親子の日 我孫子」は今年2回目の開催です。親子一緒に楽しい思い出を作りませんか。

日時 7月23日(日)

場所 アビスタ・手賀沼公園

主催 親子の日@手賀沼公園2023 我孫子実行委員会



あびこ市民活動ステーションからのお知らせ

市民のチカラまつり 2023 「まつり部門」開催

9月23日(土) 9:30~16:30は、けやきプラザを会場に市民活動団体が催す多世代交流イベント「市民のチカラまつり 2023」を行います。(参加費無料、材料費は有料の場合あり)

階	午前	午後
外・1階	(けやき広場) 車椅子体験、グラウンド・ゴルフ、販売、企業ブース (アビシルベ) 竹灯籠展示・体験 16:00~ みんなで歌おう「我孫子市民の歌」	
2階	子どものお店・ワークショップ 折り紙体験、マジック、昔遊び	和ワークショップ
6階	ナンプレ解説	
7階	野鳥クイズ、葉っぱのしおり作り	
8階	おにぎりイベント、しゃべり場、パソコン相談、Google レンズ使い方紹介、名刺作り	
9階	ダンスセラピー、スクエアステップ、ハンドマッサージ	ユニバーサル・スポーツ (ボッチャ、卓球バレー、モルック)
10階	1輪のお花体験、ハンドマッサージ	
11階	多世代が楽しめるレコード・CD コンサート	
アビクオーレ	缶バッジ作り、バザー、手作り品、紅茶試飲・販売	

